

## トドマツの野鼠害

問 最近、トドマツにネズミの被害が多く出ていると聞きましたが、実際の被害状況はどうでしょうか。また防除はどのようにしたらよいでしょうか。 (留萌市 A 生)

答 一般民有林を対象にお話します。トドマツのネズミ被害は昭和 20 年代に既に記録されていますので、被害そのものは目新しいものではありません。昭和 40 年代のトドマツ被害は全体の 3% 以下でした。最近トドマツの造林面積がふえたので、その被害量は少し多くなりました。ここ数年のトドマツ被害は野鼠被害全体の 10~20% を占めています。野鼠被害の中で大きなウエイトを占めているのは依然としてカラマツ被害ですが、そのカラマツは造林面積が減ったことから、最近その被害も少なくなり、相対的にトドマツ被害が目につくようになりました。

ここ 2, 3 年の被害本数はトドマツで 20 万本前後、カラマツで 85 万本前後です。(図)。トドマツの被害量は第 2 位にあたります。

造林樹種のなかではトドマツはネズミの好まない樹種の一つです。実験室での食害試験によれば、すき、きらいの程度はグイマツと同等であると報告されています。しかし現実には被害が出ていますので、ネズミ数の多い年や毎年きまって被害の出る所では、トドマツに対しても防除が必要なのは当然です。トドマツは被害が出ない、と杓子定規に考えない方がよいと思います。

防除方法は被害の予想される地域の若齢級を中心にヘリ 1 回程度の散布でよいと思います。もちろん、ネズミ数が多いければ、さらに防除を強める必要もあります。なお民有林の 1~2 齢級トドマツ造林地への防除率は全道平均 25% で、支庁により 9~71% のばらつきがあります(道林務部造林課調べ、昭和 57 年度資料より)。防除率の低いところではもう少し防除面積をふやした方がよいと思われる。

なお、カラマツの鼠害は昭和 45, 46 年以降かなり少なくなっていますが、枯死にいたらないまでも、ネズミの食害跡から腐朽菌が侵入して材の腐朽や変色をひき起こすことが知られていますので、カラマツへの防除も怠りなく実施して下さい。 (昆虫野兎鼠科 中田圭亮)

